

# 和束より日本茶の魅力込めて 農家若手英語版HP



和束茶の栽培から販売までを手がける若手の茶農家のグループ「京都おぶる茶苑」(和束町南大生水)は、英語版の和束茶のホームページを立ち上げた。インターネットで日本語のHPを開設して煎茶などを販売している。「日本茶の良さを和束から世界に発信したい」としている。

## あす米4都市回りPR

大学2年の時に和束町でお茶にふれ、茶農家を目指して同町に移住した喜多章

浩さん(32)、東京でサラリーマン生活を送っていた松本靖治さん(33)、町の自然にあこがれて移り住んだ竹内さん(32)、東京でサラリーマン生活を送っていた松本靖治さん(33)、町の自然にあこがれて移り住んだ竹内加代さん(33)の3人。英語版HPでは、和束の町の紹介、和束茶の説明、茶の種類や価格などを紹介している。

3人は数年前から茶栽培に取り組み始め、現在は後継者がない茶農家から、急傾斜地で高齢者には作業が難しい茶園1・2㌶を借り、かぶせ煎茶、ほうじ茶

がいる」と抱負を述べた。時吉さんは「・8歳、74歳。運動神経が抜群で、陸上部では走り幅跳びで打ちつけ、「現役時代、人の体験稽古に参加したのがきっかけで、「一度きりの結果はついてくる」と生徒に語りかけた。

## 和束より日本茶の魅力込めて

英語版和束茶PRのホームページを立ち上げた(右から)松本さん、喜多さん、竹内さん(和束町南大生水)

など約120点を製造、インターネットで販売している。登録客は約2700人

という。

2005年1月、HPを見たアメリカ・コロラド州の日本人すし職人が、日本茶フェア開店のため購入。その後、アメリカの2都市のティーハウスから注文が相次いだことがきっかけで、英語版のホームページを立ち上げた。

松本さんと喜多さんはこれまで、アメリカ・ワシントン州のサンディエゴなど4都市を回り、大学の日本語科特別講義などで、日本茶



全校生徒に見送る(八幡市立男山

と抱負を述べた。

高田川部屋の千田川親方時吉さんは「・8歳、74歳。運動神経が抜群で、陸上部では走り幅跳びで打ち

けつけ、「現役時代、人の体験稽古に参加したのがきっかけで、「一度きりの結果はついてくる」と生徒に語りかけた。



「寺の裏金4000万円」と記載された表紙。表紙の左側には、宗大谷派の寺の裏金4000万円と記載された表紙。表紙の左側には、宗大谷派の寺の裏金4000万円と記載された表紙。

「寺の裏金4000万円」と記載された表紙。表紙の左側には、宗大谷派の寺の裏金4000万円と記載された表紙。

「寺の裏金4000万円」と記載された表紙。表紙の左側には、宗大谷派の寺の裏金4000万円と記載された表紙。

「寺の裏金4000万円」と記載された表紙。表紙の左側には、宗大谷派の寺の裏金4000万円と記載された表紙。